

# 東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

## 大好きな一冊が見つければそれで十分

～ 脇明子ほか著『自分を育てる読書のために』(岩波書店) p.74 より ～

### 1. ヘレン・ケラーが目標とした人物・塙保己一



(画像提供: 本庄市教育委員会)

視力を失うという大きな障害を乗り越え、今なお学問を修める人々にとって必要不可欠な書物である『群書類従』を編纂した国学者・塙保己一をご存じでしょうか。世界的な偉人であるヘレン・ケラーが人生の目標とした人物としても知られ、日本最初の公認女性医師である荻野吟子は保己一がまとめた『令義解(りょうのぎげ・古代律令の解説書)』に助けられ、女性医師の道を切り開きました。

多くの人々に影響を与えた塙保己一とはどんな方だったのでしょうか。

1746年に現在の埼玉県本庄市に生まれた保己一は、幼い頃から読んでもらった本の内容を全て覚えてしまうほど記憶力に優れていました。しかし、7歳の時に病により失明。12歳の時には最愛の母を亡くし、生きる希望を失ってしまいます。ある時「太平記読み」という話芸を生業にしている人たちがいることを知り、保己一は15歳で江戸に出る決意をしました。当道座(とうどうざ)という目の不自由な人々の組織に入り、雨富校校(あめとみけんぎょう)という師匠のもとで鍼や按摩の修業を積みますが、保己一が好きな学問は学ばせてもらえず、修行にも身が入りません。そんな保己一の様子をみた雨富校校は、彼が学問の道へ進むことを許可すると、その後の保己一は見違えるほど何事にも前向きに取り組むようになり、学者としての評判も徐々に高まってきました。

保己一は34歳の時に『群書類従』の編纂を始めます。当時は貴重な資料が(今のように図書館にまともな状態で)なく、全国に点在していて、火事で焼失したり、紛失することもあったため、保己一は後世の人たちの学びの助けになるようにと、これらの貴重な資料を集めて、分類や整理を行いました。目が不自由な身でありながら、書物のためなら自分で足を運び、借りた書物を弟子に写させたそうです。多くの人が手にできるようにと版木(はんぎ)に彫り、印刷するスタイルを用いました。版木の枚数は全部で17,244枚。冊数にして666冊という大文獻集『群書類従』は、編纂を始めてから実に約40年の月日を経て、保己一が74歳の時に完成しました。このほか、『大日本史』の校正や「和学講談所」の設立など、保己一は国学において多方面で活躍しています。晩年には当道座の最高位である総校校となり、76歳で天命を全うしました。驚くことに、保己一は『群書類従』の完成後すぐに『続群書類従』の準備に取り掛かっていたそうですよ。『続群書類従』は保己一の生前には完成が叶いませんでしたが、保己一が亡くなってから90年目(明治時代末)に上梓されました。



### ◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

一人の楽しみは、決してその人限りに止まらず、必ず広く他に及ぶ。

【『渋沢栄一訓言集』・処事と接物】

「楽しい気持ち」というのは周りの人にどんどん広がっていくそうです。自分が楽しむれば、周りの人もきっと明るい気持ちになります。毎日笑顔で楽しみましょう。

※格言は『渋沢栄一 100の訓言』 渋澤健・著/日本経済新聞出版社 p.174より転載

### 2. あなたは、どう生きますか？

時代を超えて読み継がれている『君たちはどう生きるか』は、人間としてどう生きればよいのかを優しく楽しく教えてくれる「子供たちに向けた哲学書」です。大人が読んで胸の高鳴りを覚えます。

主人公である15歳の少年コペル君は、様々な体験を通じて素朴な疑問を抱きますが、これに対して「おじさんのNote」という斬新なスタイルで、倫理観やモラル、真の勇気や生き方について優しく説かれています。

「コペル君」という呼び名は、母方の叔父さんが付けたニックネームで、地動説を唱えたコペルニクスに由来しています。天動説と地動説のように「自分を中心に世界を見るか」「世界を中心に自分を見るか」で物事の見方や考え方が全く異なるため、「コペルニクスのように物事を客観的に見る目を養ってほしい」という願いを込めて、コペル君と呼ぶようになったそうです。

コペル君に優しく語りかける叔父さんの教えは、皆さんの胸にもぐっと響くことでしょう。心に染みる言葉が溢れた1冊です。



### 3. 私たちのミッション「SDGs」!

「このままでは地球がもたない」—いまの世界は貧困や差別、紛争や気候変動など様々な問題に直面しており、未来の地球は立ち行かないほど危機的な状況を迎えると推測されています。そんな地球の危機を回避するために定められたのが「SDGs(エスティージズ)\*」です。SDGsとは「人類が地球で暮らし続けていくために達成すべき目標」のことで、2015年9月に国際連合において開催された「国連持続可能な開発サミット」で採択されました。SDGsは「17の目標」と「169のターゲット」から成り立ち、2030年までに達成することを目指しています。「17の目標」には「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」などが掲げられています。詳しくは外務省や日本ユニセフ協会のHP、図書館所蔵のSDGs関連の書籍をご覧ください。SDGsを学んでみましょう。大学内に設置されているウォーターサーバーにもSDGsが表示されています。こちらもぜひご覧ください。

「SDGsって難しそう…」と感じる方もいらっしゃるでしょう。実はSDGsを知って周りを見渡すと、身近なところで自分たちにもできることがたくさんあることに気づきます。例えば、節電や節水、エコバッグを使う、水筒を持ち歩く、食べ物を粗末にしない等も立派なSDGsです。SDGsと意識せずに日頃から取り組んでいらっしゃる方も多かもしれませんね。SDGsでは「もったいない」や「ありがとう」という気持ちをもつこと、そしてSDGsを「自分とは関係のない遠くの方で決められた事」と考えずに「自分事」と捉えることが大切だそうです。

SDGsは国際社会全体で取り組んでいく、私たち人類全体に課せられたミッションです。皆さんお一人おひとりの力が、未来の地球を明るく導きます。SDGsを知り、身近なところからできることを始めてみましょう。

\*1 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略



知っていますか? SDGs  
ユニセフとめざす2030年のゴール  
(公益財団法人日本ユニセフ協会 制作協力/ さえら書房)



## 『三千円の使いかた ～ How to use 3,000 yen』

リプロダクティブ看護学領域 黒崎治美



三千円の使いかた  
(原田ひ香著 / 中央公論新社)

『三千円の使いかた』— 果たしてどう使えば人生、これでよしといわれるのだろうか? スーパーで買い物したら三千円は一回で使い切ってしまう金額だ。

日頃の私の不安はこの生活の仕方では老後は良いのかというものだ。雑誌の広告に、『老後の貯蓄は1000万円!』とあるけれど、これは夫婦2人分なのか? 年金はいつから貰えば良いの? など気にしているが中身を勉強しない自分がいて、もやもやしつつも答えは保留のまま。YouTubeでは、節約おかずをテキパキと保存している主婦が出てくる。しっかり考えて無駄のない行動をする主婦を演じてみたいが、帰宅が遅くなるのを失う。

この本では、5人の女性が出てくる。73歳の御厨琴子は果敢にハローワークに通い仕事を探す。亡くなった夫の財産を金利の良い銀行に預け替える。娘の智子は、忙しくて夫のために食事を作ってきた今までの生活を、自らの癌治療をきっかけに振り返る。これからは自分の時間を作ってみたいと夫に話す。智子の幼なじみの千さとは、熟年離婚をしようとしていた。離婚後の二人の貯金の配分や年金の受け取り金額が話題になる。孫の真帆は、初恋の相手と23歳の時に結婚し、消防士となった夫と賃貸アパートに暮らし節約しながら1000万円貯金を目指す。真帆の妹の美帆は、爽やかな細身のイケメンすぎない容姿の翔平と結婚しようとしたら、親が大学時代に勝手に申し込んだ奨学金の返済があることを知る。

ご近所の安生は季節労働をして気ままに暮らす。

どれもよくありそうな人物である。彼女達は、私もよくありそうな人物の一人なのだと思うさせてくれ、安心させる。色々な暮らし方、色々なお金に対する考え方がある。何を幸せとするかはその人次第だ。それを承知の上でも、自分が幸せなのは自信が持ちにくいものだ。

先日、高校の同窓会に参加した。40年ぶりの友人たちは皆歳を重ねていた。礼拝堂で讃美歌を歌い、中庭から校舎を見上げたら高校時代の自分を思い出した。毎日無邪気に過ごし、楽しかったなあと笑ってしまった。大人になり定年を間近に控え、隣の芝生が青く見えてドキドキしていたが、「他人は他人、私は私で良いのだよ、心配するな。」と静かに自分に言い聞かせていこうと決めることができた。

### 鉄道開業 150 年記念企画展「鉄道の作った日本の旅 150 年」

鉄道が開業する以前の陸路移動はおもに徒歩でしたが、1872年に日本初の鉄道(新橋～横浜間)が開業した後は、徐々に乗り物による移動へと変わっていきました。観光旅行のほか、出征や疎開など時代を反映した移動もあり、人々の移動は鉄道とともにあったと言えます。本展では鉄道による長距離移動をすべて「旅」と捉え、日本の「旅」と「鉄道」との関わりを振り返り、その変遷の様子を紹介します。展示は前期(鉄道開業前～1940年代)と後期(1950年代～現代)の2期に分け、現在は後期展示を開催中です。

では展示内容をご案内しましょう。前期展示では、鉄道が開業する前の旅のスタイル(江戸時代の徒歩による旅の姿)や鉄道開業後の新しい旅のスタイル(寺社参詣や団体旅行など)、開戦後の鉄道の役割などを紹介しました。戦時中の鉄道は、おもに軍事輸送や出征・疎開の輸送に使用され、空襲被害を受けながらも1日も休まずに動き続けたそうです。日本中の時が止まったと言われる1945年8月15日(終戦日)にも鉄道は動いていました。後期展示では、戦後の復興の象徴である特急列車「へいわ」(東京～大阪間・1949年)や日本万国博覧会(大阪・1970年)を機に旅が広く大衆化したこと、オイルショックや自動車・航空機の普及により一時的に鉄道利用が減少するも、寝台特急やクルージング列車、新幹線の革新化などにより、再び鉄道旅行が見直されてきた様子が紹介されています。普段は目にするのできない秘蔵資料も特別公開しています。ぜひご覧になってみませんか?

では、鉄道のよもやま話をひとつ。小説『点と線』(松本清張著)は時刻表愛読者を増やすきっかけになったのをご存じでしょうか。時刻表トリックの真骨頂と言える本ミステリーは、どこにいても時刻表さえ開けば、自由に旅を想像できることを教えてくださいました。

写真:『鉄道の作った日本の旅 150 年』ポスター 写真提供: 鉄道博物館(画像の転載ならびにコピー禁止) 会場: 鉄道博物館 本館 2F スペシャルギャラリー(〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番) 会期: 2022年7月23日(土)～2023年1月30日(月) ※前期・後期に分けて展示 開館時間: 10:00～17:00(最終入館16:30) 休館日: 毎週火曜日、年末年始(但し12月27日(火)、翌年1月3日(火)は開館) 入館料: 一般: 1,330円 / 小中高生: 620円 / 幼児: 310円 ※入館券は事前購入制 ※障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳をお持ちのご本人および介護者1名まで入館料金割引対象(この場合事前購入は不要) アクセス: JR大宮駅よりニューシャトル「鉄道博物館(大成)駅」下車徒歩1分 鉄道博物館HP: <https://www.railway-museum.jp/> ※最新の情報はHPをご覧ください



### ◇ ネリネ ◇



花名はギリシャ神話に登場する美しい水の精ネーレーイスに由来しています。その美しい姿を見た者は誰もが再会できる日を夢見たそうで、「また会う日まで」という花言葉がつけられました。秋～冬の景色を彩る美しい花です。

### ◆ 図書館からのお知らせ ◆

青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) をご存じでしょうか。「誰でもいつでもどこでも自由に本が読める」というコンセプトのもと、著作権の保護期間が過ぎた作品や、著作権者本人から承諾を得た作品を中心にインターネット上で無料公開している電子図書館です。夏目漱石や芥川龍之介、太宰治など日本の名だたる文豪のほか、ドストエフスキーやカフカなど有名な外国作家による作品も多数収録されており、かなり読み応えがあります。外国文学(原書)にご興味のある方は、Project Gutenberg (<https://www.gutenberg.org/>) もお勧めです。外国語の勉強にもなりますよ。ちょっとした時間に本を開けば、そこはもう自分だけの書斎です。年末年始は本の世界に浸ってみたいいかがでしょうか(2022年12月28日(水)～2023年1月3日(火)は図書館休館です。ご迷惑をおかけいたします)。

